

札幌モーターショー2014 モーター・コミュニケーションパークにて ～Welcomeシーニックバイウェイ北海道in札幌モーターショー2014～開催!

大人から子どもまで幅広く楽しめる札幌モーターショー。前回実績12.5万人の来場者が訪れる道内有数のイベントにおいて、北海道のドライブ観光の推進を周知・促進する取り組みとして、「Welcomeシーニックバイウェイ北海道in札幌モーターショー2014」を実施します。会場内では、全14ルートの大規模写真パネル・パンフレット展示、ペダルカー体験、お絵かき体験、ご当地キャラクターの登場などを予定しています。

札幌モーターショー2014 公式HP
<http://sapporomotorshow.jp/>

◆実施日時:平成26年2月15日(土) 9:00~18:00
平成26年2月16日(日) 9:00~17:00

◆会場:札幌ドームC会場
(札幌市豊平区羊ヶ丘1)

会場へ入る際には入場料がかかります。

【前売】一般1,000円、中・高校生500円
【当日】一般1,200円、中・高校生700円
(小学生以下無料但し保護者同伴が条件)

■Welcomeシーニックバイウェイ北海道
in札幌モーターショー2014
主催/シーニックバイウェイ北海道推進協議会

第13回「野生生物と交通」研究発表会のご案内



「野生生物」と「交通」に関わる問題は、異分野間にまたがる学際的な研究テーマであるため、その情報交換の機会が極めて少ないのが現状です。この機会に、多くの方にご参加いただき、「野生生物」と「交通」に関する知識の情報交換の場として、ぜひ活用ください。現在、パネル展[1/24(金)縮切]、聴講[2/12(水)縮切]、懇親会[2/12(水)縮切]の申し込み等を行っております。詳しくはホームページをご覧ください。



「野生生物と交通」ウェブサイト

<http://www.wildlife-traffic.jp>

開催概要

- ◆開催日時:2014年2月21日(金)10:00~
- ◆会場:札幌コンベンションセンター
(札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1)
- ◆主催:(一社)北海道開発技術センター
- ◆共催:(一社)エゾシカ協会・(公財)北海道環境財団
(一社)シーニックバイウェイ支援センター
- ◆協力:エコ・ネットワーク

※講演論文集は、研究発表会後もエコ・ネットワークにて購入できます。(送料無料)
※論文集購入に関するお問い合わせはエコ・ネットワークまで
(TEL 011-737-7841)

参加費

- ◆パネル展示:無料 [2014年1月24日(金)縮切]
- ◆聴講:無料 [2014年2月12日(水)縮切]
- ◆講演論文集:予価2,500円(開催当日販売)
[2014年2月12日(水)縮切]
- ◆懇親会:4,000円/人 [2014年2月12日(水)縮切]



←美味しいエゾシカ料理が
食べられます。
この機会にぜひご賞味を!

お申し込み・お問い合わせ

(一社)北海道開発技術センター内「野生生物と交通」研究発表会係
●担当:向井・永井 ●TEL:011-738-3363 ●FAX:011-738-1889
●Email wildlife@decnet.or.jp ●ウェブサイト <http://wildlife-traffic.jp>

編集後記

2月15日(土)~16日(日)、シーニックバイウェイ北海道の大雪山・富良野ルート上で、雪のランドアートプロジェクト「ウィンターサーカス」が開催されます。アーティストの作品は、地域の方々が制作をサポートし、旭川市西神楽や東神楽町、美瑛町、上富良野町深山峠・見晴台公園、占冠村、砂川サービスエリアの7会場で展示します。例年好評な会場を巡るバスも運行予定ですので、ご興味のある方はいかがでしょうか。(M.K)



2014.2.1
vol.341

www.decnet.or.jp

ニュースレター デックマンズリー
一般社団法人北海道開発技術センター



北海道テレビ放送株式会社
役員待遇 CSR広報室長
國本 昌秀 氏

●今の特集… 第29回 寒地シンポジウム2013【後編】

●その他のラインナップ…
「野生生物と社会」学会 参加報告

CSR(企業の社会的責任)活動といっても企業によってさまざまな取り組みが行われていますが、今回は、CSR活動の一環として「雪はねボランティア」に参加していただいたHTBのCSR広報室長である國本氏に、HTBのCSR活動の位置づけと、ボランティア活動の関係についてお話を伺いました。

國本さんはCSR広報室長をされていますが、CSR広報室というのはどのような仕事をされていますか?また、HTBさんのCSR活動とはどのようなことですか?

当社のCSRは、「コンプライアンスの遵守」というところから始まりました。私が着任したときは「CSR推進室」という名称で、CSRの大前提である社員のコンプライアンス推進がメインのミッションでした。しかし、せっかくCSRという名前がついているのですから、CSRの中でも地域貢献であるとか、社会貢献に広く目を向け、CSRという概念を大きく捉えて活動していこうということになりました。

そもそも、メディアというものは、学校や病院と同じように社会のために存在しているものですね。つまり、当社の本業そのものが、いわばCSRであるという気づきがありました。これを社員にも知ってもらいたいと、2011年からですが、まずは年に1回、事業報告書とも言える「CSRレポート」をつくることから始めました。

当社の企業理念「夢見る力を応援する広場」と、当社が目指す北海道の未来像「HTBビジョン 未来の北海道」に向かって、HTBが行っている仕事とCSRがどのように結びついているのかということ編集方針としました。

当社の本業とCSRの関係を考えたとき、

わかりやすい三つの例があります。一つは、当社の看板番組である「水曜どうでしょう」という番組ですが、「皆さんに笑ってもらおうことで、元気になってもらう、生きる活力の広場になる」という意味で、これは立派なCSRです。二つ目には、当社は地方局では珍しいことですが、年に一回北海道発の全国ドラマを制作しています。内容としては、北海道の風土に根付いた家族の普遍的な物語です。家族のあり方を考えるというドラマですので、人々の生きる活力につながり、これも心を応援するという立派なCSRです。

三つ目としては、当社の海外発信事業で、北海道の「観光」であるとか「食」の魅力のアジアに発信するための番組を積極的に制作しています。これも北海道の価値を高めることによってアジアの観光客の増加に貢献し、当社も成長させていただくということで、アジアに向けた番組発信もCSRという位置づけが出来ます。

当社のCSRの形は、まず自分たちの本業の強みを生かした仕事で、地域の持続的な成長に貢献し、そして我々も成長させていただくといった観点で行っています。本業を定義すると「地域メディア」です。ですから、CSRレポートのタイトルも「地域メディア活動報告書 ユメミル、チカラ応援レポート」としました。

当社のCSR活動は、アジアの中の北海道のメディアとして、本業の強みを生かし、「ユメミル、チカラ」を応援することです。

dec Interview

くにもと まさひで

1956年9月生まれ。1979年、北海道テレビ放送株式会社(HTB)入社。報道部長、報道情報局長を経て2010年にCSR推進室長。2013年にCSR広報室に改組となり、現職。